

そこが聞きたい!! 一般質問

一般質問のようすは、インターネットで配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます。(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です)



小中学校体育館の暑さ対策／スポーツによる地域活性化 土方 隆司（新政みらい）



録画配信の
2次元コード

◆さらなる暑さ対策を求める

近年の命が危険にさらされるほどの暑さといわれる中にあっては、事故を防ぐための重要課題の一つとして暑さ対策が挙げられると考えられる。特に部活動や一般開放として使用される小中学校の体育館についてはさらなる対策が必要であると考えられることから、対応を求める



増設されることになった
大型送風機

が見解は。

生涯学習部長 全ての小中学校体育館に大型送風機各1機の導入を目指し、既に11校に導入した。来年度以降、大型送風機の増設などについても検討する。

◆さらなるスポーツ振興に向けて

健康増進、経済的効果、プロモーション効果などスポーツが持つ効果というのは大変大きなものがあると考えますが、さらなるスポーツ振興に向けた市長の所信は。

市長 さらなるスポーツの振興に向け、誰もが気軽に継続してスポーツを楽しめる環境づくりを推進するとともに、本市に事業所があり、競技スポーツのトップレベルで活躍する企業やクラブチームなどを、市を挙げて応援する環境を整え、チームの活躍が市民の活力となり、市の活性化につながるよう全力で取り組んでいく。

その他のテーマ▶東京2020オリンピック・パラリンピックにおける狭山市の役割



狭山市の健全な発展のためには健全な財政の維持を! 内藤 光雄（新政みらい）



録画配信の
2次元コード

◆健全な財政に必要な歳入の変化について

市税を中心とする自主財源比率の推移は。
総合政策部長 平成25年度は66.54%であったが、26年度以降はほぼ横ばいの約60%で推移している。26年度以降、景気回復により市税収入が増加傾向の中で、基金からの繰り入れの抑制に努めたことにより、約60%を維持してきた。



安心して暮らせる
狭山市のために

◆健全な財政を維持するために

①健全な収支バランスを維持するための歳出の取り組みは。

②財政健全化を考える上で特に重要視する点は。
総合政策部長 ①年々増加する社会保障関係経費は、介護予防や成人病予防によりその抑制に努めていく必要がある。

公共施設やインフラ施設の老朽化による維持管理経費の増加に対しては、公共施設の集約化などによる再編を進めるとともに、改修経費の平準化の点から計画的な改修に努めていく必要がある。

市長 ②社会保障関係経費や公共施設の維持管理経費の増加が見込まれる中、少子高齢化や生産年齢人口の減少などにより、大幅な税収増を期待できないことから、財政の将来を見据えた中で的確に経費を見込み、整合性を図る中で施策を実現していく必要がある。

その他のテーマ▶市職員の人材育成「資質・能力の向上／マネジメント能力の向上」

狭山市のよりよいまちづくりのために

建設環境委員会

建設環境委員会では、10月17・18日の2日間、インフラ整備や住宅政策に先進的に取り組む伊丹市と環境モデル都市・生駒市を、10月30日は武蔵野市を視察しました。

●伊丹市の取り組み

インフラ通報システムは、道路や公園などの不良箇所を市民からの通報により把握し、速やかな修繕につなげ、瑕疵による事故を防止し、市民サービスの向上を図る。住宅政策として、高齢化率の上昇、空き家の社会問題化に対応し、誰もが安全・安心に暮らせ、「住みたい・住み続けたい」と思える住環境作りを目指し、伊丹市住生活基本計画を策定した。公営住宅は随

《行政視察先と内容》
兵庫県伊丹市
インフラ通報システム
・住宅政策の取り組み
奈良県生駒市
環境モデル都市
アクションプラン
東京都武蔵野市
武蔵境駅北口市有地有効活用



視察の成果を行政に提言

●視察を終えて

先進市で学んだ点を狭山市に還元するため、引き続き調査・研究し、提言・要望につなげていきます。

また、市、市民、事業者が出資する地域エネルギー会社「いこま市民パワー株式会社」は、地域から購入した電力を販売し、エネルギー地産地消の取り組みを行っている。収益の活用方法は市民が考え、高齢者の見守り・買い物支援、子育て・教育支援、ICTを用いた情報提供などのコミュニティサービスとして提供している。

●生駒市の取り組み

時募集も行い、空き部屋を出さない工夫も行われている。

環境モデル都市・循環と協創の5つの柱と先進的な事業

▼都市構造の再設計▼資源循環・エネルギー自給システムの構築▼ICTを活用したコミュニティサービスの推進▼食のバリエーションの構築▼コミュニティ交通システムの再構築

議会だより 200号特集コーナー



200号記念に寄せて

昭和44年7月に狭山市議会だよりを創刊以来、狭山市をとりまく環境は大きく変わり、市民ニーズも多様化する中で、議会の果たす役割はますます重要となっております。今後も「市民にわかりやすい議会」「開かれた議会」を目指して取り組んでまいります。

狭山市議会議長 新良守克

半世紀の時が過ぎ、人口は3倍の約15万人になりました。議会だよりを世に送り出してから、年輪のごとく成長し、現在は多様な広報媒体による情報発信を展開しております。節目を迎え、初心を忘れることなく、市民の皆様が必要とされる議会広報を実現してまいります。

狭山市議会副議長 太田博希



太田副議長

新良議長

《狭山市議会・議会だよりのあゆみ》

昭和29年 7月	狭山市市制施行
昭和30年 5月	市制施行後初の市議会選挙 議員定数は30人(現議員定数:22人)
昭和44年 7月	狭山市議会だより創刊
昭和59年10月	表紙にカラー写真を採用
平成元年 7月	写真画質が向上し、活字の種類も豊富に
平成 7年 7月	紙面をA4版に大きく見やすく変更
平成16年 7月	ホームページに議会日程案を掲載
平成25年 5月	「Withゆう市議会」放送開始
平成27年 7月	議会だより一般質問ページに二次元コードを掲載。スマートフォンで手軽に本会議を視聴できるようになる
平成28年 1月	議会広報アンケートの結果を紙面に掲載
平成29年 6月	本会議のインターネット生中継配信開始
平成30年 2月	届け出挙式を本会議場で挙行

※200号特集コーナーは15ページに続きます